

## 日本女性の教育：過去と現在



日本で高等教育が始まったのは遅かったのですが、女性への高等教育の始まりには二つのモデルがありました。

最初のモデルとは、日本へやって来たヨーロッパやアメリカのキリスト教徒たちによって作られたもの。この時、教育は英語を教えることに焦点が当てられていました。本会の学校はこのモデルに属していました。

もう一つのモデルは、教育の開拓者であった

津田梅子によって作られました。1871年、彼女は6歳の時に渡米し、ワシントンDCで教育を受けました。その後帰国し、いわゆる貴婦人たちを教育するための学校で、教師として務めました。梅子は、そこで教えられていることは時代遅れであると気付きました。そこでの教育の焦点は、よき妻、よき母になることへと当てられていたからです。

1900年7月、現在津田塾大学と呼ばれる女子英学塾が開校しました。小さな学校で、無償教育が授けられていました。この学校では、すべての女性に教育を授けることに力が注がれていました。

多くの革新的でハイレベルの授業が無償で与えられていました。これが、現代女性教育の基盤となりました。

第二次世界大戦後、男性のみを受け入れていた大学は、男女共学となりました。1946年、東京大学は、19名の女学生を受け入れました。これらの女性たちは、男性のみの大学へと入学し、自分自身のためにより良い人生を築こうと努力していた、勇気あるパイオニアたちです。東京にある最高峰の大学で、自分の居場所を見つけるために急勾配を上ってゆかなければなりません。彼女たちが最初に学長と話し合ったことは、女性のためのバスルームを設置してもらうことでした。

男女共学校ではあっても、学生たちが受けた教育環境には、明確に大きな違いがありました。入学試験は同一であっても、不平等は存在していたのです。女性が成功することは大変難しい状況でした。298人の学生のうち、2.1%が女学生でした。成功した女性たちにとっても、社会の中で自分の立ち位



置を見つけることは大変でした。彼女たちは社会の重荷となってしまいました。さらに、彼女たちが受けた教育は、自分たちのニーズに合ったものではありませんでした。



そうして、ある女子大学が設立されましたこの大学は、女子学生が高等教育を追及できるような特別な環境を特徴としていました。教育は二つのカテゴリーに分けられていました。一般教育と専門教育です。専門教育には保育のスキルや栄養学などが含まれており、一方で一般教育では通信や言語学、そして情報技術のスキルなどが提供されました。

1980年代以来、社会科学に対する女生徒たちの態度は向上して行きました。

### **将来に向けた女性教育へのチャレンジ**

日本は、ジェンダーギャップがまだまだ存在する社会です。2018年のジェンダーギャップインデックスで、日本は第110位に位置していました。現在、管理職にある女性の率は低いです。共学校において女性が校長になる確率は、女子高での確率の半分ほどです。しかし、女子高の校長には、どの女性でもなることができます。女子大学には、女生徒たちが異性の目を気にすることなく学生生活を送れるような環境が整っています。これから先は、女性のリーダーシップを発展させることを強調すべきであると思います。

Andrée Maheu, CND  
Agnes Ngo Nken, CND